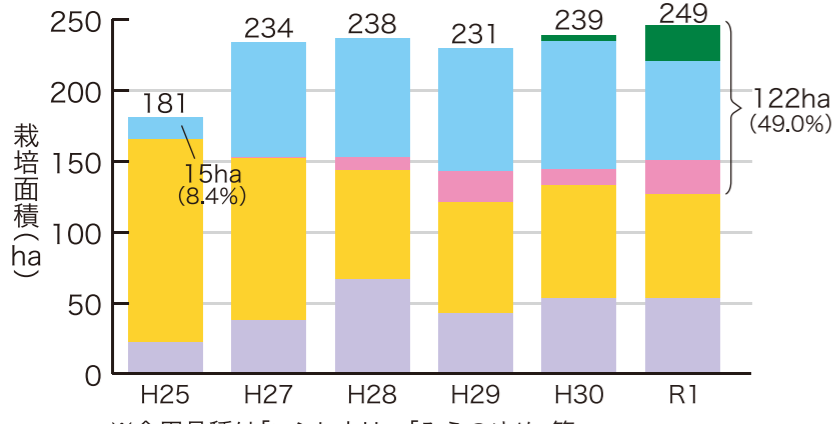


# 三重県における高糖分高消化性WCS用稲の状況

## 1. 高糖分高消化性WCS用稲品種の割合が増加しています

三重県におけるWCS用稲の栽培面積と品種の推移



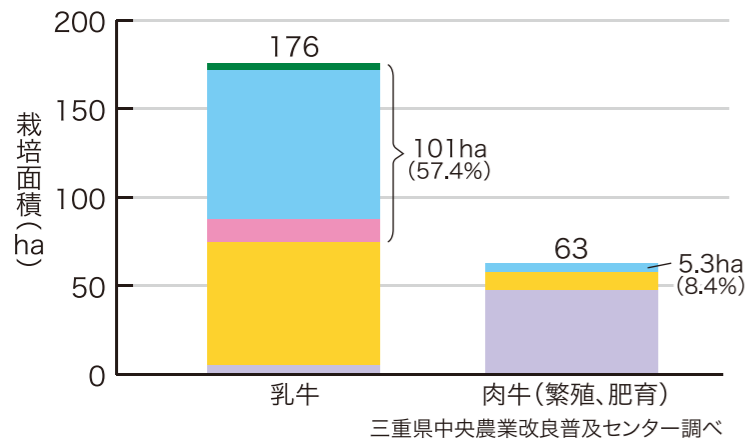
※食用品種は「コシヒカリ」、「みえのゆめ」等、  
専用品種は「夢あおば」、「ホシアオバ」、「モミロマン」等  
三重県中央農業改良普及センター調べ

- 平成25年から「たちすずか」の栽培が本格的に始まる。
- 平成28年から「たちあやか」の導入が始まる(収穫期分散)。
- 平成30年から「つきすずか」の導入が始まる(「たちすずか」の後継候補品種検討)。
- 高糖分高消化性WCS用稲品種がWCS用稲栽培面積の半分を占める。

つきすずか } 高糖分高消化性WCS用品種  
たちすずか }  
たちあやか }  
専用品種 食用品種

## 2. 高糖分高消化性WCS用稲品種の利用は酪農家で多くなっています

畜種別に仕向けるWCS用稲の栽培面積と品種(H30)



三重県中央農業改良普及センター調べ

- 乳牛へ給与するWCS用稲の6割近くは高糖分高消化性WCS用稲品種が占める。
- 「ホシアオバ」等の従来のWCS専用品種も4割を占め、酪農では専用品種の利用が大部分である。
- 肉牛では食用品種の利用が8割近くを占め、高糖分高消化性WCS用稲の利用は1割以下。
- 栄養価の高い粗飼料を多く必要とする酪農家で高糖分高消化性WCS用稲品種の利用が進む。

つきすずか } 高糖分高消化性WCS用品種  
たちすずか }  
たちあやか }  
専用品種 食用品種

## 3. 長稈の高糖分高消化性WCS用稲品種に対応した新たな収穫調製体系

極短穂で長稈の高糖分高消化性WCS用稲を効率的に収穫するため、県内でも「回転式フォレージャーベスタ」が導入されている。この機械は従来の機械よりも短い切断長(1cm程度)で収穫できるため、圃場で収穫した稲をバラで飼料基地に運搬し、そこで細断型ロールベアラで梱包する体系がとれ、収穫調製作業効率が向上し、極めて良質な稲WCSが調製できる。長稈稲を短く切断収穫する収穫機は他にも市販されている(右図は一例)。



汎用型微細断飼料収穫機  
(株式会社タカキタHPより引用)



回転ドラム式フォレージャーベスタ

収穫した稲をバラで飼料基地に運搬し、細断型ロールベアラで梱包



細断型ロールベアラ

このリーフレットは、農林水産省委託プロジェクト研究「収益力向上のための研究開発」(自給飼料分科会)により行われた研究の成果を基に作成しました。

問い合わせ先

三重県農業研究所 (0598) 42-6359  
三重県畜産研究所 (0598) 42-2029  
三重県中央農業改良普及センター (0598) 42-6705



台風常襲地域でも  
倒伏させない  
たちすずかの栽培暦

令和2年1月

三重県農業研究所  
三重県畜産研究所  
三重県中央農業改良普及センター

# 台風常襲地帯(三重県)における高糖分高消化性WCS稲品種「たちすずか」栽培暦

月旬	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月										
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下								
生育・作業	播種			移植			追肥 (分施肥の場合)			出穂			収穫・調製																
	種子消毒 浸種	育苗日数は16日程度	箱施薬 基肥施用 除草剤施用	移植適期は5月下旬～6月上旬			追肥適期は7月中旬～下旬			倒伏に耐える→目標草丈150cm			出穂時の草姿			収穫適期は出穂後30～60日 水分55～70%			秋季に堆肥施用(1～2t/10a)										
水管理	深水			浅水			中干し			間断灌水			落水			出穂を確認したら落水 (極端に圃場が乾燥する場合は走り水を行う)													
	深水			浅水			中干し			間断灌水			落水			出穂を確認したら落水 (極端に圃場が乾燥する場合は走り水を行う)													
管理のポイント	土づくり・施肥						移植						水管理																
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 耕畜連携により完熟した牛糞堆肥を1～2t/10a施用する。堆肥連用の場合は減肥する。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施肥体系</th> <th>窒素成分施用量(10a)</th> <th>肥料例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>省力型</td> <td>10～12kg</td> <td>LP70</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">分施</td> <td>基肥6kg</td> <td>高度化成</td> </tr> <tr> <td>追肥4～6kg</td> <td>NK化成</td> </tr> </tbody> </table>						施肥体系	窒素成分施用量(10a)	肥料例	省力型	10～12kg	LP70	分施	基肥6kg	高度化成	追肥4～6kg	NK化成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 草丈を抑えて収量を確保するため、栽植密度を50株/坪とする。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 移植後は深水管理で蒸散を抑え、活着を促すとともに除草剤の効果安定させる。その後は浅水とし分けつの発生を促す。</li> <li>■ 移植後40～50日間で中干しを行い、その後は間断灌水とし、出穂を目安に落水するが、極端に圃場が乾燥する場合は走り水を行う。</li> </ul>					
	施肥体系	窒素成分施用量(10a)	肥料例																										
省力型	10～12kg	LP70																											
分施	基肥6kg	高度化成																											
	追肥4～6kg	NK化成																											
<b>育苗</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健全種子を用い、播種量は乾粒で150g/箱とする。</li> <li>■ 高温期の育苗のため、換気に留意し、徒長や病害の発生を防ぐ。また、育苗期間は短くなり、播種から16日程で移植が可能である。</li> </ul>						<b>病虫害・雑草防除</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 移植時(播種時)の殺虫殺菌剤の箱施薬が省力的である。一般的な栽培より田植え時期が遅くなるため、生育初期といもち病最盛期が重なる。初期の対応が重要である。</li> <li>■ 殺菌剤、殺虫剤の浸漬処理または温湯消毒(60℃・10分)による種子消毒に加えて、いもち病には殺菌剤による播種～播種7日後の育苗箱灌注処理が有効である。</li> <li>■ 除草剤散布後は湛水状態を保ち、雑草防除を徹底する。</li> <li>■ いもち病等、箱施用剤の残効を考慮し発生状況に応じて防除を行う。</li> <li>■ 飛来害虫であるコブノメイガやウンカ類についても発生予察情報に注意し防除対策を講じる。</li> </ul>						<b>収穫・サイレージ調製</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 出穂後60日を経過しても水分55%以上、糖含量10%を維持し、飼料成分値及び乳牛へ給与した際の消化性も低下しないことから、出穂後30日から60日までが適期となる。</li> <li>■ 倒伏や水分含量の低下など、サイレージ調製に懸念がある場合は、サイレージ添加資材の使用が望ましい。</li> </ul>																	
<b>病虫害の発生情報は三重県病虫害防除所</b> <a href="http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm">www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm</a>																													